『夕刊フジ』2014年(H26)6月6日(金)付 (5日(木)発行) P18

夕刊フジ
発行所 ©産業経済新聞東京本社2014
〒100-8160 東京都千代田区大手町1-7-2
TEL(03)3231-7111大代表
<昭和44年2月28日第3種郵便物認可>
2014年(平成26年)
6月6日(金)
発行・5日

名医はこの人

ブラックジャックを探せ

"おしっこの悩み"患者目線で

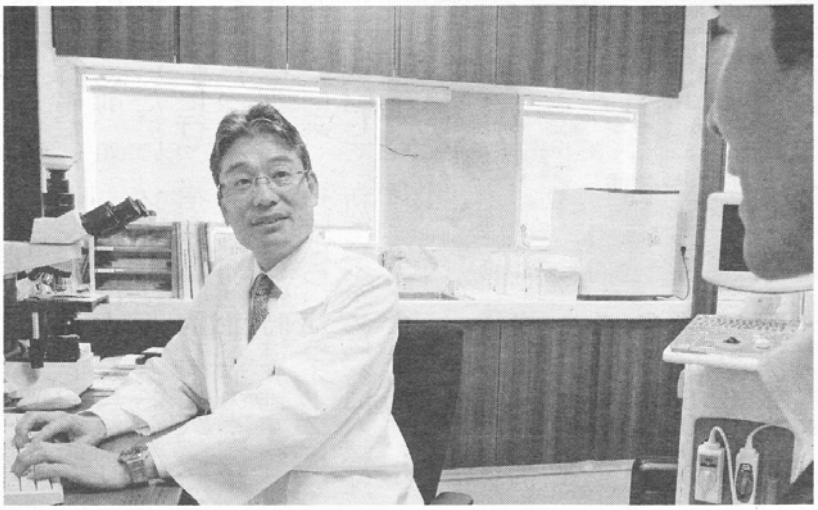
よこやま腎泌尿器科クリニック院長 横山光彦さん(48)

西日本有数の文教都市・岡山に、昨年オープンした真新しい診療所がある。「よこやま腎泌尿器科クリニック」は、その名の通り、泌尿器科に特化した専門医院。院長の横山光彦医師は、「泌尿器科の敷居を下げたかった」と開業の理由を語る。

大学病院勤務の時代から「排尿障害」を専門とし、研究と臨床にあたってきた。その経験を生かし、現在のクリニックでも前立腺肥大症に代表される「おしっこの悩み」には特に力を入れている。

「前立腺肥大症の場合は、α1遮断薬という薬を第一選択とし、治療効果を見ながら他の薬や生薬を使うこともある。以前と違って治療薬が増えたことで、治療の幅も広がった。患者にとってはもちろん、泌尿器科医にとってもありがたい時代ですよ」と笑顔を見せる。

ただし、薬の効き方は個人差がある。単に投薬すればいいというものではない、という。



よこやま・てるひこ　1965年、広島県生まれ。90年、岡山大学医学部卒業。同大泌尿器科研修医。十全総合病院(愛媛県)、三原赤十字病院、尾道市民病院に勤務後、98年より米・ピッツバーグ大学留学。帰国後、岡山大学医学部附属病院泌尿器科外来医長、医局長、川崎医科大学泌尿器科講師を経て、2013年10月より現職。日本泌尿器科学会認定専門医・指導医。医学博士。趣味は史跡巡り。

「気軽に相談できる泌尿器科」目指す

「一番よくないのが『薬の出しっぱなし』。服薬期間に対する症状の変化を詳細に観察していくことが重要だし、それができるのが専門クリニック。大学病院では難しい、そうした細やかなフォローアップを、ここでやりたかったんです」

大学病院時代には「切迫性尿失禁」というぼうこうの筋肉が硬化する病気に、ボツリヌス毒素を使った治療の研究に取り組み、この領域で高い知名度と豊富な実績を持っている。その噂を聞きつけた患者が、県内全域から集まって来る。

「泌尿器科って、何となく入りづらいイメージを持たれがち。でも、"おしっこの悩み"は男女問わず誰にでも起き得る問題。気軽に相談できる存在でありたい」と抱負を語る。

"患者目線の泌尿器科"を目指す、横山医師の挑戦が始まった。

(長田昭二)